



石神井南中学校 学校だより

令和元年度 第 9 号
発行日 1月28日(火)
練馬区立石神井南中学校
校長 田邊 克宣

「 新たな年に 」

校長 田邊 克宣

大寒もすぎ、厳しい寒さが続いております。この1月は例年になく雨の日が多く、春が待ち遠しい今日この頃です。そうした中、石南中生は学校生活のペースを取り戻し、元気に登校しています。

20日の生徒会朝礼では、石南中の引き継ぐべき伝統の一つとして、開始時刻前に自分たちできちんと整列し、冷え切った体育館の中でも静かに座って待つ姿に、こちらが身の引き締まる思いがいたしました。内容も、生徒の主體的な活動として、学年毎の取り組みや、各委員会の活動が延べられ、それぞれ、目の前のやるべきことにしっかりと向き合っていこうとする意気込みを熱く感じられました。生活委員会が新たに企画した「挨拶週間」では、ただ挨拶するだけでなく、笑顔を添えようという、グレードアップした行動を目指すものとなっており、そこに創意工夫の跡が見られます。より良いものを目指す姿勢に、中学生らしい活力が感じられ、頼もしい限りです。

さて、現在学校では、3年生の進路への取り組みがいよいよ佳境に入り、2年生はスキー移動教室、1年生は校外学習と、教職員も一丸となってそれぞれの職責遂行に当たっております。そうした中、同時進行で、昨年末に実施した学校評価アンケートの検証を行っているところです。早急に対応を要するもの、時間をかけた検討が必要なもの等、お寄せいただいた様々なご意見を前に、すべてはより良い学校のために、教職員もいろいろな意見を交わしあっております。より良い学校とは、つまり、生徒のためであり、保護者のためであり、地域のためであることはもちろんですが、学びを提供する我々教職員にとってもよい学校であることが大切であることは、案外忘れられているところではないでしょうか。

昨今、働き方改革が声高に叫ばれていますが、それは何も楽をしようということではありません。人が人として、普通に、心身共に健康に働くことができる環境を確立させなければならない状況にあるからこそ、“改革”という大仰な言葉が使われているのだと思います。それは学校においても例外ではありません。学力の向上に道德性の涵養、規範意識の確立や協調性、社会性の育成をもって全人格の陶冶を目指す学校教育では、評価・評定といったすぐに目に見える数字以外に、義務教育を終えてから後の人生において必要な、“生きる力”の諸々を身に付けさせることが大きな目的です。その成果を即時検証することは不可能であると同時に、年間を通して計画的に教育課程を実施していく中で、日々、突発的な事象に対応することが必須の職場でもあります。大人が心に余裕をもてずに子供と対峙したとき、それがよい教育となるかどうかは、家庭で、保護者として日々、思春期のお子様と接している皆様であれば痛感されていることと存じます。

これまで培ってきた伝統という礎の上に、時代に即した新たな石南中を築き上げていくことが目指すところであることは、保護者も、地域も、教職員も、同じではないでしょうか。

より良い次年度へとつなげていくことを念頭に、今年度の決済となる3学期を充実したものとさせて参ります。引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

1年生校外学習

担当 工藤 悠

今年度1年生は、「自分たちの住む東京の歴史や文化に触れ、親しみを持とう」というスローガンのもと校外学習に取り組みました。東京都について、「伝統」「寺社」「首都機能」「防災・交通」「スポーツ」の5つのテーマから、班ごとにさらにテーマを深め、事前学習に取り組みました。また、平和学習の一環として東京大空襲についても学びました。

当日は、初めての班行動でしたが、大きなトラブルなく全班帰ってくることができました。計画通りに行かないときも班員全員で協力して対応したことは、良い経験となったようです。



本所防災館



新国立競技場



杉並アニメーションミュージアム



フラジル大使館大使と記念撮影



昭和館(九段下)



TBS前にて